

令和7年7月  
関西広域連合議会臨時会

報 告 書

令和7年9月11日

関西広域連合議会議員 原 徹 臣  
同 福 山 博 史  
同 北 島 一 人

## 議 事 日 程

令和 7 年 7 月 5 日 (土)

午後 1 時開議

- 第 1 諸般の報告
- 第 2 議席の指定及び変更
- 第 3 副議長選挙の件
- 第 4 会議録署名議員の指名
- 第 5 会期の決定
- 第 6 選挙管理委員及び補充員の件
- 第 7 第 9 号議案（広域連合長提案説明）
- 第 8 第 9 号議案（監査委員の選任について同意を求める件）
- 第 9 一般質問

第 9 号議案

**監査委員の選任について同意を求める件**

次の者を監査委員に選任したいから、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 292 条において準用する同法第 196 条第 1 項の規定により、同意を求める。

令和 7 年 7 月 5 日提出

関西広域連合広域連合長 三 日 月 大 造

関西広域連合議会議員のうちから選任する者

広 谷 直 樹

令和7年7月臨時会 質問項目一覧

	府縣市	質問者	質問時間	質 問 項 目
1	大阪府	中野 稔子 議員 (一問一答)	10分	1 南海トラフ地震への対応について
				(1) 災害廃棄物の処分について
				(2) 応援協定を結んでいる自治体との連携について
				(3) 能登半島地震の教訓を活かした計画の改訂について
				2 北陸新幹線に係る京都市会の反対決議について
				3 特別市に対する関西広域連合の考え方について
2	大阪府	須田 旭 議員 (一問一答)	10分	1 関西パビリオンについて
				(1) 関西パビリオンの効果検証について
				(2) 「関西・WEBパビリオン」の継続的な活用について
				2 住民にとって身近な関西広域連合について
				3 脱炭素社会の実現について
3	大阪市	原口 悠介 議員 (一問一答)	12分	1 防災庁の設置について
				(1) 構成団体における防災庁設置の考え方について
				(2) 国に対する今後の要望について
				2 広域交通インフラ施策について
				3 関西広域連合の認知度向上に向けた取組について
4	堺市	的場 慎一 議員 (一問一答)	8分	1 文化庁との連携強化について
				2 消えゆく文化資源の保存・継承
5	兵庫県	村岡 真夕子 議員 (分割)	10分	1 経営・環境・地域社会の持続化につながる農業について
				(1) 食料安全保障と調和する環境創造型農業の推進について
				(2) 広域的な農業人材育成について
				2 広域的な環境保全について
				(1) 特定外来生物ナガエツルノゲイトウ対策について
				(2) 水資源の確保・水源地の保全に向けた広域的な連携について
6	兵庫県	斉藤 なおひろ 議員 (一問一答)	10分	1 関西広域連合の認知度向上について
				2 産学官連携の今後目指す方向性について
				3 米不足解消に向けた担い手不足解消について
				4 関西広域周遊の現状について
7	神戸市	よこはた 和幸 議員 (一問一答)	8分	1 関西における首都機能のバックアップについて
				2 防災庁の誘致について
				(1) 関西の優位性を活かした防災庁の誘致について
				(2) 防災庁誘致に向けた機運醸成について
8	京都市	宇佐美 賢一 議員 (一問一答)	8分	1 北陸新幹線のルートについて
				2 CO2削減に向けた電源確保策について
9	滋賀県	井狩 辰也 議員 (一問一答)	10分	1 広域連合に統合された調理師免許制度について
				2 WMG2027関西大会に係る関西広域連合の取組について
10	和歌山県	玄素 彰人 議員 (一問一答)	16分	1 地方分権に向けて関西広域連合が果たすべき役割について
				2 観光の課題解決に資する休日の平準化について
11	奈良県	芦高 清友 議員 (一問一答)	16分	1 「広域連携による行財政改革の推進」について
				2 「広域リージョン連携」について
12	徳島県	原 徹臣 議員 (一括)	12分	1 国主導による防災対策の更なる推進について
				(1) 分散備蓄の充実強化について
				(2) 防災教育の更なる充実について
				2 ドクターヘリについて
				3 「いのち」をテーマにした観光振興について
13	鳥取県	鳥羽 喜一 議員 (一括)	8分	1 広域防災体制の確保に向けた防災庁拠点の関西への誘致について
				(1) 広域防災体制の確保について
				(2) 府県域を超える広域連合のメリットを活かした防災庁の地方支分部局の設置について

## 本県選出議員の質問概要

原 徹臣 議員

### 1 国主導による防災対策の更なる推進について (1) 分散備蓄の充実強化について

#### (質問要旨)

先般の能登半島地震では、死者総数592名のうち、災害関連死による死者が、直接死を上回る364名となったところ。助かった命を繋ぐ避難所等において、こうした災害関連死を防ぐため、全国の自治体においては、避難所のQOL向上に鋭意取り組まれていると承知している。

こうした中、去る3月28日、国の分散備蓄についての概要が示された。災害備蓄については、迅速に物資を被災地へ届けることが重要であり、これまで、言わば自治体任せとなってきたことを考えると、国による積極的なプッシュ型支援は評価するところであるが、示された備蓄拠点数や、物資の内容については、十分なものとは言えない。

そこで、南海トラフ巨大地震を迎え撃つため、関西広域連合として、国の分散備蓄の充実強化、具体的には全ての重点受援県への備蓄拠点設置や備蓄物資の充実を求めていると考えるが、所見を伺いたい。

#### (答弁要旨)

○広域防災担当 副委員（服部 洋平）

南海トラフ巨大地震等の大規模広域災害においては、発災後数日間は自治体による備蓄物資で対応することを基本とする一方、以降、安定的な物資供給体制が確立するまでの間は、国が被災者の必要とする物資を調達し緊急輸送するプッシュ型支援を行うこととしている。

今回の国の分散備蓄では、このプッシュ型支援物資のうち、簡易ベッドのように調達に一定の時間を要するものや、キッチン・入浴支援設備のように特注品で、発災直後に調達が困難であるものを選定し、全国8地域9カ所に整備することとされている。

議員ご指摘の「国の分散備蓄の充実強化」は、発災直後、必要とする物資の迅速な供給を可能とするうえで不可欠であり、備蓄物資の質的・量的な充実は重要であると考えている。

関西広域連合では、既に国に対して「防災拠点の充実・強化」や、「国による主体的な物資の配備」等について提案を行っているところ。今回の国による分散備蓄の取組状況や、令和7年3月の国による南海トラフ巨大地震被害想定見直しに伴う構成団体での取組状況等も踏まえ、引き続き、国に対し備蓄体制の充実強化について働きかけてまいります。

## 本県選出議員の質問概要

原 徹臣 議員

### 1 国主導による防災対策の更なる推進について (2) 防災教育の更なる充実について

#### (質問要旨)

わが徳島県では、25年後の2050年に人口3割減とも予測されるなど、急速な少子高齢化・人口減少が進行する中、地域における防災の担い手をいかに確保・養成していくかは、極めて重要な課題であると認識している。

令和3年5月に国の防災教育・周知啓発ワーキンググループがとりまとめた提言書には、「防災教育は、10年後に地域を支える大人をつくり、20年後には地域の防災文化をつくる礎である。」と記されており、私も強く同意するところである。

一方、この提言書が取りまとめられ4年が経過するが、特に学校現場においては、未だ旧態依然とした防災訓練を実施しているなど、防災教育が浸透しているとは言い難い状況にある。

児童・生徒が、いざ発災時をしっかりとイメージした防災活動を通じ、災害を「我が事」と捉える実践的な防災教育により、郷土愛や地域を担う意識が育まれるとともに、将来、防災を地域の当たり前の文化として根付かせることができると思う。

このため、一案として、例えば、小・中学校の集団宿泊活動にリアルな防災訓練を取り入れるとともに、日頃から、様々な場面を想定した訓練を繰り返し実施するような仕組みづくりが必要であり、南海トラフ巨大地震と向き合う、我々関西圏から、積極的に提案していくべきではないか。

そこで、関西広域連合として防災教育の更なる充実に向け、どのように取り組まれるのか、所見を伺いたい。

#### (答弁要旨)

○広域防災副担当 副委員（小松 恵一）

南海トラフ巨大地震などの大規模災害に備えるため、防災教育の充実は重要であると認識している。少子高齢化が進む中、子供たちが防災を自分事として捉え、地域における防災の担い手となるよう育成することが重要であると考えている。

神戸市では、独自に防災教育副読本「しあわせ はこぼう」を作成し、震災から学んだ教訓を風化させることなく、小・中学校ほぼ全ての学校がこの副読本を活用した防災教育を実践している。

また、将来の地域での防災の担い手を育てる取組として、防災福祉コミュニティに所属する小・中学生で構成された、防災活動に取り組む防災ジュニアチームの育成を支援している。当該チームは、地域の防災訓練や消防出初式に参加するほか、防災イベントやJICA研修等での活動発表、全国少年消防クラブ交流大会への参加など、積極的に防災教育及び防災活動に取り組んでおり、今後は、こうした有効な取組について構成団体内で共有し、横展開を図っていく。

さらに、関西広域連合では、国に対して、学校教育等の機会を通じた防災教育の実施について提案しているところであるが、今後も引き続き、地域に根差した防災教育の更なる推進に向け、関西広域連合で連携して取り組んでまいりたい。

## 本県選出議員の質問概要

原 徹臣 議員

### 2 ドクターヘリについて

(質問要旨)

関西広域連合管内では、8機のドクターヘリが運航されており、複数のドクターヘリが補完し合う二重・三重のセーフティネットを構築することで、救急患者の救命率の向上や、後遺症の軽減に、大きな成果を挙げている。

特に、医師が都市部に集中する地域偏在や、小児科・産科・外科などの診療科偏在が、顕著である地方においては、いつでもどこでも安全・安心な救急医療体制の充実・強化に、なくてはならない存在である。

また、徳島県をはじめ、関西全域に大きな被害を及ぼすとされる南海トラフ巨大地震等の大規模災害時には、道路が寸断し、陸路での搬送が困難な被災地の患者を、被災地外へ搬送するといった大きな役割を果たすことが、期待されている。

一方で、本年4月、ドクターヘリとは異なるが、民間の医療搬送用ヘリコプターが、患者搬送中に海上へ不時着水し、搭乗者が亡くなるという、痛ましい事故が発生した。

事故の原因は、現在、調査中とのことだが、この事故機と関西広域連合管内のドクターヘリとが、同系列型機であると聞いている。

このことから、運航にあたっては、現場スタッフを含め、そのことに不安を感じる構成府県市民もいると思う。

そこで、不安を払しょくするためにも、ドクターヘリの安全運航の徹底に向けた、関西広域連合の対応を確認したい。

(答弁要旨)

○広域医療担当 副委員(志田 敏郎)

関西全体の広域救急搬送を担うドクターヘリは、山間部など地理的条件が厳しい地域において重要な役割を果たしており、また、有事においては迅速な医療救護活動も期待されているが、運航に当たっては、安全管理の徹底が何より必要不可欠である。

このような中、4月に発生した民間の医療搬送用ヘリコプターの事故を受け、国土交通省から、事故と同系列型機の所有者に対する「耐空性改善通報」が2回にわたり発行されたところであり、速やかに、関西広域連合管内8機全てのドクターヘリの点検・検査を実施し、安全性の確保を図ったところである。

さらに、万全を期すため、国土交通省からの指示事項に加え、運航委託先において、点検日程調整中の1機を除き7機について、自主点検・検査を実施しており、問題がないことを確認している。

現在、運輸安全委員会において事故調査を行っており、引き続き、本事故に対する国や関係機関の動向を注視し、また適切に対応するとともに、今後とも運航委託先との連絡を密にして、患者やその家族、医療スタッフに安心して搭乗いただけるよう運航の安全確保を徹底してまいりたい。

## 本県選出議員の質問概要

原 徹臣 議員

### 3 「いのち」をテーマにした観光振興について

#### (質問要旨)

近年、旅行のスタイルが多様化する中で、健康を増進したり、ストレスを解消したり、心身のリフレッシュや自己成長を目指す、ウェルネス・ツーリズムが、訪日外国人、いわゆるインバウンド層の間で注目を集めている。

一例を挙げると、坐禅や瞑想、写経、滝行といった寺院での修行体験などのように、静寂な空間や自然豊かな環境の中で、自分自身の「いのち」と向き合うことで、心と身体のバランスを取り戻すことができる、そのような体験が人気を集めている。

関西地域は、古くから文化と信仰の中心地として発展してきた背景があり、世界遺産にも登録されている比叡山延暦寺や高野山金剛峯寺、東大寺など、歴史的または文化的価値の非常に高い寺院が数多く存在する。

そして、今まさに開催中の大阪・関西万博において、「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマとして掲げられている。このテーマを一過性のものにとどめず、未来へのレガシーとして継承していくためにも、「いのち」をテーマにした観光振興に関西一円で取り組んでいくことが大事なのではないか。

そこで、関西地域が持つ豊かな歴史、文化、自然を活かしながら、世界中の人々に「いのち」と向き合う旅の形を提案し、関西一円の誘客につなげていくべきと考えるが、所見を伺いたい。

#### (答弁要旨)

○広域観光・文化・スポーツ振興担当 副委員（鈴木 一弥）

関西広域連合では、関西観光本部と連携して8つの広域周遊ルートを造成し、周遊観光の促進に努めており、心と体の癒しという観点からは、「心の原点への巡礼の旅」をテーマに熊野古道を含む紀伊半島エリアを結ぶルートを紹介している。

また、大阪・関西万博に向けて官民連携で立ち上げた「EXP02025関西観光推進協議会」では、270以上の旅行商品が造成されている。その一つとして、議員地元の徳島県の「お遍路体験」は、地元の皆さんがお遍路さんに食事や宿を提供する「お接待」も体験することができ、そうした人との関わりに触れる中で、命のつながりを実感できるものとして注目を集めている。

これら旅行商品の中には、他にも、温泉、トレッキング、森林浴など、関西各地の「癒し」「リラックス」をキーワードにした観光コンテンツも多数含まれている。また関西は、西国三十三所巡礼の地であり、最近では社寺を巡りながら数珠玉を集め、数珠を完成させる数珠巡礼など、お寺巡りを通じて心の平穏を人々にもたらしてきたエリアでもある。

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマにした大阪・関西万博の理念を受け継ぐレガシーとして、健康増進や心身の癒しに資する関西の豊かな資源を活用し、観光振興に取り組んでまい。